

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
YIC京都ビューティ専門学校		平成21年12月2日		佐々木 章		〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4100																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人YIC学院		平成19年1月22日		井本 浩二		〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
商業実務	商業実務専門課程	ブライダルホテル科		平成28(2016)年度	-	平成29(2017)年度																															
学科の目的	良識ある社会人として必要な資質を持ち、地域社会の発展に貢献できる心豊かな美容業界のスペシャリストとして活躍できる人財を育成する(教育理念)。 具体的には 1. 自分を磨くとともに、まわりの人たちの心と身体を癒しながら美しく健やかな人を創り出すことに喜びを感じ、そのための正しい知識と高い倫理観を持った人材。 2. 外見の美しさだけでなく、健康、知性、感性、人間性、心、自信、教養、これら全てが、真の美しさを創り出す大切な要素であると考え、美容、エステ、メイク、ネイル、ブライダル等ビューティ分野全般の基本的知識・技術を持つとともに、それぞれの専門分野のプロフェッショナルとして必要な技術・知識を究めた人材。 3. 常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感を持った人材。 4. 人間的な魅力と備え、接客や対人コミュニケーションの場において、「おもてなしの心」で接することのできる人材。 5. 利他の精神で働くことに社会的意義を感じることのできる人材。 6. 拳法の演出・プランニング、フラワー、ホテル業務、メイク、ヘアアレンジ、着付けの知識まで、幅広く活躍できるトータルプロデュース力を備えた人材。 7. 幅広い教養、将来ブライダル・ホテル業界の指導的立場やリーダーとなりうる人材。																																				
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	ブライダルコーディネイト3級技能士資格、ABC協会ブライダルプランナー検定2級																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																													
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間 66 単位	単位時間 30 単位	単位時間 12 単位	単位時間 25 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																																
60 人	20 人	0 人		0 %	21 %																																
就職等の状況	■卒業者数(C) : 14 人 ■就職希望者数(D) : 14 人 ■就職者数(E) : 14 人 ■地元就職者数(F) : 6 人 ■就職率(E/D) : 100 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 43 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 % ■進学者数 : 0 人 ■その他 : (令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報) ■主な就職先・業界等 (令和6年度卒業生) 株式会社帝国ホテル、株式会社近鉄・都ホテルズウエスティン都ホテル京都、株式会社エブリワーク、HOTEL BELLCLASSIC Tokyo(ホテルベルクラシック東京)、カトープレジャーグループ KPG HOTEL&RESORT、株式会社帝国ホテル、株式会社 岩本貴衣衣店 幸三郎ウェディング、リゾートトラスト株式会社、京都ブライトンホテル株式会社、京阪ホテルズ&リゾーツ株式会社、株式会社 京都ホテル、有限会社 トップ等																																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																				
当該学科のホームページURL	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/bridal/																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定) <table border="1"> <tr> <td>総授業時数</td> <td>0 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち必修授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td> <td>単位時間</td> </tr> </table> (B: 単位数による算定) <table border="1"> <tr> <td>総単位数</td> <td>67 単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td> <td>7 単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の単位数</td> <td>0 単位</td> </tr> <tr> <td>うち必修単位数</td> <td>64 単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td> <td>7 単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td> <td>0 単位</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td> <td>4 単位</td> </tr> </table>									総授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	67 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	7 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位	うち必修単位数	64 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	7 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	4 単位
総授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																				
うち必修授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																				
総単位数	67 単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	7 単位																																				
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位																																				
うち必修単位数	64 単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	7 単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	4 単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>1 人</td> </tr> </table>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人	計	3 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	1 人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人																																				
計	3 人																																				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	1 人																																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・教育課程編成委員会において、学校の方針・編成に対する企業等による意見・提案をいただき、教育課程の編成をより職業実践的にすべく内容改変あるいは新規導入等の可否を検討する。さらに、企業等による連携授業・教職員の技術研修、学生の実務研修、就職指導等の協力・実施計画等併せて討議する。これらの結果は、基本的には次年度の教育課程編成に適用する。
・編成委員会の意見・要請は教育課程の編成に十分生かすものの、最終的には学校の教育理念に沿ったものであることを前提に、編成した教育課程は最終的に校長認可の上実施する。

進歩している業界の知識・技術を取り入れ、教育課程を「生きた」ものにするために教育課程編成委員会を組織する。
より業界のニーズに沿った人材育成に係わっていただき、PDCAのサイクルを回して、教育の硬直化を避け、就職率・定着率のアップを産・学・官・民協力の下、推進していくことが目的。
より実践的、業界事情にあった科目を展開するべく委員それぞれの立場や視点からの率直なご意見をいただきながら、教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討していただき、新たな導入・内容改善・時数設定などの検討を行う。

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム検討会議に報告するものとする。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
・学校運営から独立した機関であり、理事会直轄の諮問機関とする、。
・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。
教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討していただき、新たな導入・内容改善・時数設定などの検討を行う。
会議の結果をカリキュラム検討会議に報告し、学科、コースごとに教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
西原 弘幸	京都府美容業生活衛生同業組合 教育委員	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
久保 智哉	株式会社ガモウ関西 京都第一 フルサポート部 部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
芦田 貴子	一般社団法人JMA 副理事長 株式会社日本メイクアップ技術検定協会 取締役副社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
三木 千恵子	株式会社ロイヤルホテル リーガロイヤルホテル大阪 ヴィニエツ コレクション プライダル部 部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
京井 さくら	ソティスジャパン株式会社 チーフ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
佐々木 章	YIC京都ビューティ専門学校 校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
山根 大助	学校法人YIC学院 理事 兼 管理部 部長 YIC京都ビューティ専門学校 副校長 兼 教務課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
田澤 初美	YIC京都ビューティ専門学校 教務課長補佐	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
澤 智春	YIC京都ビューティ専門学校 総合支援課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。) ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回 (6月、11月) (開催日時(実績)) 第1回 令和7年6月16日 15:00～17:00 第2回 令和7年11月17日 13:30～15:30(予定)
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 (意見) ・インターンシップ期間の変更について、5日間2回実施とし、土日を含むスケジュールで本番の結婚式を見る機会を増やしてはどうか ・外国語についてはホテルブライダルでは英語が非常に重要、学生時代からの英語教育が重要 (活用状況) ・インターンシップ期間、カリキュラムを変更し提案する ・新設された国際ホテル・ビジネス科との積極的な交流を図ることにより、語学力、コミュニケーション能力、主体性、積極性、チャレンジ精神、協調性、柔軟性、責任感などを学ぶ「英語だけで行う授業」を取り入れる。
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 ブライダル、トータルビューティ、ビジネス基礎、キャリア基礎力分野の科目は全員が習得しなければならない基礎的・汎用的技術であり必修科目と位置付ける。一方、ビジネス基礎力分野については社会学習の補完として位置づける。 幅広い知識・技能を必要とするブライダルホテル業界において、実践的な能力を身につけるため、必修科目、選択科目ともにビューティ、ホテル、ブライダル分野の企業、団体等と連携し、ブライダルホテル業界が求める知識・技能・実務を的確に反映した教育体制としている。 連携授業の効果をより確かなものとするため、本校と企業、学協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)、等については連携の協定書締結時に確認する。
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 学内の授業・実習などで修得した知識や技術等を企業及び各種団体などの各施設や現場で利活用して実践力を養成しつつ、高い評価が得られる職業社会人として必要なスキルや多様な能力が求められる実態を学生本人が把握をし、そのニーズを見極め自身の醸造と今後の学習において自己課題を設定する機会としている。 ・企業等と協定書を締結し、連携授業としてエステ実習やネイル実習等で学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。 ・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
京都和婚	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	古都の風情と伝統的な文化が深く根付いた京都で、神社仏閣や庭園での美しい結婚式について教授する。 また、日本の儀式や慣習に従って行われている和婚の良さを実際に体感し、全国や外国人観光客に魅力を広めていける人材を目指す。	賀茂別雷神社
ブライダルプランニング演習	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	当該授業はプランナーにおける結婚式当日までの打ち合わせの流れを知る。また実際に打ち合わせ内容について説明ができるようにロープレを実施する。 実際に企業様を訪問させていただき現場のプランナーの方からレクチャーを受ける。	京阪ホテルズ&リゾート株式会社 サ・ウザンド京都
インターンシップⅠ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	株式会社京都ホテル、株式会社Plan・Do・Seeザ ソウドウ 東山 京都、株式会社BP ザ オークガーデン、エルアイビリーリゾート株式会社FURIAN山ノ上迎賓館、株式会社クラウドディアホールディングス アイネス ヴィラノッツェ宝ヶ池他 計7社
インターンシップⅡ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	株式会社京都ホテル、株式会社Plan・Do・Seeザ ソウドウ 東山 京都、株式会社BP ザ オークガーデン、エルアイビリーリゾート株式会社FURIAN山ノ上迎賓館、株式会社クラウドディアホールディングス アイネス ヴィラノッツェ宝ヶ池他 計7社
ブライダル企業研究	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	当該授業では、ブライダルおよびホテル業界に関わる主要企業の理念・サービス・文化などを調査・分析し、学生自身の進路選択に活かすことを目的とする。グループワークやプレゼンテーションを通して情報収集力や発信力を高め、将来の志望企業を見つけ、自分自身の強みや価値観と結びつけて表現できる力を教授する。	RRH京都オペレーションズ合同会社(リーガロイヤルホテル京都)、株式会社クラウドディアホールディングス(アイネス ヴィラノッツェ宝ヶ池)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員の研修に関する事項は「教職員研修規程」に定めている。

目的:研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

原則:学校法人は教職員に対する研修の必要性を把握し、その結果に基づいて研修に関する計画を立案し、その実施に努める。また、研修の計画を立て、実施するに当たっては、研修の効果を高めるため教職員の自己啓発の意欲を発揮させるように配慮する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: ABC協会 ブライダル&ドレススタイリスト認定講師資格取得セミナー

連携企業等: 全米ブライダルコンサルタント協会(ABC協会)日本オフィス

期間: 2024年9月(オンライン)
ドレススタイリスト検定試験概要
ドレススタイリスト編 日本編・欧米編

対象: 新規講師資格取得者

内容
ブライダルプランナー検定試験概要
協会資格案内

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: YIC京都 教職員研修会 シラバス・コマシラバスについて

連携企業等: 学校法人YIC学院

期間: 2024年8月23日9:30～16:30、2025年1月8日9:30～12:30

対象: 教職員

内容
8月23日
シラバス、コマシラバス作成について(新様式作成について学ぶ)
グループワーク(各グループ1科目についてシラバスを作成する)
1月8日
シラバス、コマシラバス作成進捗状況発表(各学科学科長による発表)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 2025年度ブライダルプランナー検定夏期1級 直前対策指導セミナー

連携企業等: 全米ブライダルコンサルタント協会

期間: 2025年6月10日

対象: ABC協会認定講師

内容
ブライダルプランナー検定夏期1級に向けての対策講講座
出題範囲・傾向
指導のポイント

研修名: 2025年度ブライダルプランナー検定秋期2級直前対策指導セミナー

連携企業等: 全米ブライダルコンサルタント協会

期間: 2025年8月10日

対象: ABC協会認定講師

内容
ブライダルプランナー検定秋季2級に向けての対策講講座
出題範囲・傾向
指導のポイント

研修名: 2025年度ドレススタイリスト検定対策指導セミナー

連携企業等: 全米ブライダルコンサルタント協会

期間: 2025年8月6日

対象: ABC協会認定講師

内容
ドレススタイリスト検定に向けての対策講講座
出題範囲・傾向
指導のポイント

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 試験問題の作り方

連携企業等: 学校法人YIC学院

期間: 2025年8月21 9:30～12:30

対象: 教職員

内容
シラバス評価基準に基づいた試験問題の作成について

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。
委員会は、教育活動及び学校運営の状況についての自己点検評価の結果を踏まえた学校の評価を行い、その結果を校長に報告する。
「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2)学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3)教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4)学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5)学生支援	5 学生支援
(6)教育環境	6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8)財務	9 財務
(9)法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10)社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(意見)
・退学抑止のため「切れない絆」、「年度、学年、学科を超えたしかけづくり」が重要
・教員、学生ともに「部署を超えた先輩による後輩のフォロー制度」によるケアを実施してみてもどうか
(活用状況)
より学校を好きになる、絆を深めるため以下の取り組みを実施
・学生間の交流を拡大するため学科、学年を超えたイベント実施
・イベントへの参加率向上、取り組み姿勢向上のため普段の授業においてイベント等との関係性について言及し、理解を深める
・機会ごとに学生から自身の興味、関心についてヒアリング

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在			
名 前	所 属	任期	種別
西原 弘幸	京都府美容業生活衛生同業組合 教育委員	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界団体
久保 智哉	株式会社ガモウ関西 京都第一 フルサポート部 部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界企業
芦田 貴子	一般社団法人JMA 副理事長 株式会社日本メイクアップ技術検定協会 取締役副社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界団体
三木 千恵子	株式会社ロイヤルホテル リーガロイヤルホテル大阪 ヴィニエツト コレクション ブライダル部 部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界企業
京井 さくら	ソティスジャパン株式会社 チーフ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())
URL: https://www.vic-kvoto-beauty.ac.jp/disclosure/
公表時期: 2025年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容（提供する情報の項目例）全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育目標
(2)各学科等の教育	学科紹介、学科別教育課程、各学科科目別シラバス、卒業要件、カリキュラム
(3)教職員	教員数、学校組織一覧、
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、教育課程編成委員会
(5)様々な教育活動・教育環境	企業連携授業
(6)学生の生活支援	ひとり暮らしサポート制度、奨学金窓口の設置、個別相談窓口設置
(7)学生納付金・修学支援	修学支援新制度、財務報告
(8)学校の財務	財務報告
(9)学校評価	自己点検・評価結果の公表、学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 2025年7月31日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダルホテル科)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義						演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○			ブライダルコーディネータースキルト検定Ⅰ	国家検定3級ブライダルコーディネータースキルト技能士試験取得対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を教授する。 結婚の定義、日本の結婚式、ブライダルビジネス、ブライダル業種、ブライダルの基礎、コーディネーター業務について学ぶ。 当該科目は、現場で実際にお客様のプランニング、様々な関連業種のコーディネータースキルト業務に役立つ。	1 前	30	1	○			○		○		
2	○			ブライダルコーディネータースキルト検定Ⅱ	国家検定3級ブライダルコーディネータースキルト技能士試験取得対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を教授する。 結婚の定義、日本の結婚式、ブライダルビジネス、ブライダル業種、ブライダルの基礎、コーディネーター業務について学ぶ。 当該科目は、現場で実際にお客様のプランニング、様々な関連業種のコーディネータースキルト業務に役立つ。	1 後	30	1	○			○		○		
3	○			全米ブライダルプランナー検定Ⅰ	ABC協会認定ブライダルプランナー検定2級取得対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を教授する。 この授業で使用する教材から日本のブライダル業界の変遷も理解する。また、現在行われている日本のブライダルでの進行や演出の多くは、欧米のブライダルの流れを受けている事を理解し、それぞれの演出や進行が持つ歴史や意味についての知識を広げる。 当該授業は、現場で実際にお客様のプランニング、様々な関連業種のコーディネータースキルト業務に役立つ。	1 前	30	1	○			○			○	
4	○			全米ブライダルプランナー検定Ⅱ	ABC協会認定ブライダルプランナー検定1級取得対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を教授する。 この授業で使用する教材から日本のブライダル業界の変遷も理解する。また、現在行われている日本のブライダルでの進行や演出の多くは、欧米のブライダルの流れを受けている事を理解し、それぞれの演出や進行が持つ歴史や意味についての知識を広げる。 当該授業は、現場で実際にお客様のプランニング、様々な関連業種のコーディネータースキルト業務に役立つ。	1 後	30	1	○			○			○	
5	○			現代ブライダル総論	本授業では、現代のブライダル業界における構造、職種、挙式スタイル、顧客ニーズ、業界課題、最新トレンドなどを幅広く教授する。 業界の全体像を理解するとともに、マーケティングやホスピタリティの視点を養い、今後の進路選択や現場での実務に活かす。	2 後	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダルホテル科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
6	○			現代ホテル理論Ⅰ	日本のホテル業界を研究し、それぞれの施設が持つ特徴を理解し、利用するお客様が求める「サービス・おもてなし」について理解する。	1 前	30	1	○			○		○		
7	○			現代ホテル理論Ⅱ	美しい所作を身に付けると同時にお客様へのおもてなしを体現できる人間になる。マナープロトコール検定3級合格を目指す	2 後	30	1	○			○		○		
8	○			ホテルビジネス基礎Ⅰ	ホテルビジネス実務検定試験対策を通してホテル業界における基本的な知識と業務内容を体系的に教授する。ホテルの種類・歴史から各部門（ドアマン、ベルマン、クローク、コンシェルジュ、フロント、インフォメーションなど）の役割と業務内容を理解させる。実務に必要な基礎知識と接客対応力を養成する。将来、現場でホテル業務における即戦力となるための基盤づくりを目的とする。	1 前	30	1	○			○			○	
9	○			ホテルビジネス基礎Ⅱ	ホテルビジネス実務検定試験対策を通してホテル業界における基本的な知識と業務内容を体系的に教授する。料飲、宴会、調理部門の役割と業務内容を理解させる。実務に必要な基礎知識と接客対応力を養成する。 将来、現場でホテル業務における即戦力となるための基盤づくりを目的とする。	1 後	30	1	○			○			○	
10	○			ブライダルコスチュームⅠ	本授業では、衣裳の歴史・ドレスコード・シルエットの名称とその似合う体型を学び、ドレスコードなどの扱い方を教授する。 洋装（ウェディングドレスやカラードレス）・アクセサリー・ベールなどの小物合わせ、和装についてトータルで学習し、ブライダルの現場で即戦力となれることを目指します。 当該科目は、現場で実際にお客様にフィッティング・メンテナンス実施の際に役立つ。	1 前	30	1	○		△	○			○	○
11	○			ブライダルコスチュームⅡ	ABC協会認定ドレスコーディネーター検定級取得対策を通し、ドレスコーディネーターへ従事する為の基礎知識を教授する。 前期で習得した技術・接客を活かしてお客様のドレス選びに必要な事前準備、ヒアリング内容、小物類の取り扱いなど、より実践的な対応を学び知識を広げる。 当該授業は、現場で実際にお客様へのドレスコーディネート業務に役立つ。	1 後	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダルホテル科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
12	○			ブライダルプロデュースⅠ	模擬的な式典と披露宴を追加することで、学生は机上の学習だけでは得られない、時間配分、役割ごとの連携、臨機応変な対応といった実践的なスキルを習得できる。さらに、リハーサルと本番を通して、計画と実行のギャップを肌で感じ、より深い学びへと繋げることができる。振り返りの時間を通して、成功点だけでなく、改善点や課題を明確にすることで、今後の学習や実際の現場での活躍に大きく貢献することが期待できる。	1後	60	2	△	○		○		○		
13	○			ブライダルプロデュースⅡ	模擬的な式典と披露宴を追加することで、学生は机上の学習だけでは得られない、時間配分、役割ごとの連携、臨機応変な対応といった実践的なスキルを習得できる。さらに、リハーサルと本番を通して、計画と実行のギャップを肌で感じ、より深い学びへと繋げることができる。振り返りの時間を通して、成功点だけでなく、改善点や課題を明確にすることで、今後の学習や実際の現場での活躍に大きく貢献することが期待できる。	2後	60	2	△	○		○		○		
14	○			セレモニープロデュースⅠ	模擬挙式を施行し、ブライダル科2年生・先生方をお客様とし実施する。模擬挙式の企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割や、チームワークを学ぶ。	1前	60	2			○	○		○		
15	○			セレモニープロデュースⅡ	高校生対象のオープンキャンパスでの模擬披露宴の実施	2前	60	2			○	○		○		
16	○			ブライダル企画運営	結婚式の商品を企画し、販売までの流れを学ぶ。商品造成のノウハウや販売・接客ツールの制作を実施。	2後	30	1	○			○			○	
17	○			ホテルマーケティング	テーマをもとに現在の環境・業界・ホテル等の課題を取り上げ、新規ホテルとそのホテルで販売する商品を提案し、発表する機会を設け、学んだことを表現・実践する考え方を学ぶ	2後	30	1	△	○		○		○		
18	○			料飲実務Ⅰ	料飲（レストラン・宴会）などの関連知識といったホテル業務に必要な実務知識を習得しホテルで働く上で必要な知識を中心に授業を行う	1前	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダルホテル科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
19	○			料飲実務 II	国家検定レストランサービス技能検定3級の実技試験の内容を通して、レストランにおけるランチタイムサービスの一連の流れ（スタンダードマニュアル）を教授する。 当該授業を履修することで、就職後の円滑な接客サービスに役立つ。	2 前	30	1			○	○		○		
20	○			フラワーコーディネートⅠ	様々なシーンにおけるブライダルフラワーの基本知識を、講義と実践（制作）を併用しながら学び理解を深める。 ブライダルフラワーコーディネーターとしての資質（マナー、姿勢、コミュニケーションスキル等）を向上させる。 資格：ブライダルフラワーコーディネーター検定（BFC）3級合格	1 後	30	1			○	○			○	
21	○			フラワーコーディネートⅡ	結婚式や披露宴の装花コーディネートを教授する。1年時に学習したフラワーアレンジの技術や知識をベースに、模擬披露宴などを通してお客様のニーズに合わせたブーケや会場装飾の提案を学ぶ実践的授業である。	2 前	30	1			○	○			○	
22	○			和装・着付け	留袖の着付けを通して帯結び（お太鼓・飾り結び）が数種できるように実践的な授業。 和装の名称を覚える。新郎新婦の婚礼和装の基本を知識として教授する。	2 前	60	2			○	○		○		
23	○			京都和婚	古都の風情と伝統的な文化が深く根付いた京都で、神社仏閣や庭園での美しい結婚式について教授する。 また、日本の儀式や慣習に従って行われている和婚の良さを実際に体感し、全国や外国人観光客に魅力を広めていける人材を目指す。	2 通	60	2	△		○	○			○	○
24	○			ブライダルプランニング演習	当該授業はプランナーにおける結婚式当日までの打ち合わせの流れを知る。また実際に打ち合わせ内容について説明ができるようにロープレを実施する。 実際に企業様を訪問させていただき現場のプランナーの方からレクチャーを受ける。	2 前	30	1			○	○			○	○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダルホテル科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
25	○			ブライダル広告研究	ブライダル業界で大きく費用のかかる宣伝広告費を理解しながら、マーケティング手法を学びリアルウェディングのリーフを作成する事で集客につなげる。	2後	30	1	○			○			○	
26	○			インターンシップⅠ	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	1前	60	2			○		○	○	○	○
27	○			インターンシップⅡ	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	1後	60	2			○		○	○	○	○
28	○			色彩学Ⅰ	当該科目では色彩検定（パーソナルカラーリスト検定）3級合格対策を通して色彩に関する基礎知識から応用技術までを体系的に教授する。四季や日本文化に根付く色彩感覚をはじめ、生活空間・ファッション・ブライダルシーンにおける色の役割について理解を深め、配色の基本原理や心理的効果について実践的に色彩学の基本から応用に至るまでの知識を習得し、実践的な配色技法を教授する。パーソナルカラーの基礎を学び、個人に適した色選びができる力を養う。現場では、色彩を理論的に理解し、豊かな表現力を持って活用できる人材を目指す。	1後	30	1	○			○			○	
29	○			色彩学Ⅱ	当該科目では色彩に関する基本的なことを学習し人の心理面にどのような働きかけをするのかを知り効果的に使用していく。色の分類・効果・演出と体系的に教授する。色彩学の基本から応用に至るまでの知識を習得し、実践的な配色技法を学びます。色彩学を基盤にした配色技術や空間演出スキルを習得し、ブライダルホテル業界でのテーブルや衣裳の演出、深い空間演出の実務に活かす。	2前	30	1	○			○			○	
30	○			ブライダルヘアメイク	婚礼における洋装と和装の際のメイクの違いについて学び、また限られた時間内でいかにアレンジの幅を広げることができるかを教授する。 ヘアメイク技術を中心に、和装と洋装のメイクや衣装チェンジ、クイックチェンジ技術、ショー用のヘアメイクアレンジなど、ブライダル業界に必要な実践的なスキルを学びます。相モデルを使用した実習を通じて、柔軟な対応力、コミュニケーション能力、デザイン力を養い、実際の現場で活かせる技術を身につける。	2前	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダルホテル科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
31	○			メイクアップ基礎	JMA検定テキストに沿い、就職活動や現場に出た際にお客様に好印象を与えるセルフメイクのテクニックを教授する。 技術の他、道具の扱い方の知識はもちろん、セルフメイクに限らず、相モデルに対してのメイクテクニックを教授する。 ブライダルや美容、接客業などの現場において、自信を持ってメイク対応ができる。	1 前	60	2			○	○			○	
32	○			メイクセラピー	化粧療法の領域における援助法の一つとして、心理的な援助活動に必要な「心理学」「コミュニケーション」メイクアップに必要な「メイク理論」「色彩学」及びメイクセラピーの概念を教授する。 当該内容は現場での印象管理、販売、接客の際に役立つ。	2 後	60	2	△		○	○		○		
33	○			ヘアアレンジ	就職活動や就職後に役立つ為、自身の夜会巻やシニヨン等を短時間で美しく仕上げれるように教授する。 また、新婦様のヘアスタイルについていくつかのパターンを習得しご提案可能となるよう技術を教授。(ウィッグ使用の実技中心とする) 自分でデザインしたスタイルを表現できる応用力を養い、ブライダルや美容の現場で即戦力として活躍できる。	1 前	30	1			○	○			○	
34	○			ビジネス基礎Ⅰ	当該科目では、秘書検定3級の学習を通して、会社の仕組みや社会人として必要なビジネスマナー・基本知識を学びます。 具体的には、秘書としての心構えや職務知識、電話応対、来客対応、ビジネス文書の作成方法などを教授する。 実務に役立つスキルを身につけることが目的です。	1 前	30	1	○			○			○	
35	○			ビジネス基礎Ⅱ	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事とはどのような内容を学ぶ。	1 後	30	1	○			○			○	
36	○			硬筆書写Ⅰ	硬筆書写3級検定試験合格を通して、ブライダル業界で必要な美しい手書き文字を教授する。また、就職活動時に正しい字で履歴書が書けるよう教授する。現場では、お客様への手紙や商談のメモ等、字で信頼していただくよう技術や知識をもって書くことができる。	1 前	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダルホテル科)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
37	○			硬筆書写Ⅱ	硬筆書写3級検定試験合格を通して、ブライダル業界に必要な美しい手書き文字を教授する。また、就職活動時に正しい字で履歴書が書けるよう教授する。現場では、お客様への手紙や商談のメモ等、字で信頼していただくよう技術や知識をもって書くことができる。	1後	30	1	○			○			○		
38	○			サービス接遇Ⅰ	当該科目では、接客業における基本的なマナーやスキルを学び、特にブライダルホテル業界におけるサービス接遇の重要性を理解します。 礼儀正しい対応や、身だしなみ、言葉遣い、表情、声のトーン、聴き手に配慮したコミュニケーション技術など、接客の基本を教授する。 実際のサービスシーンを想定したロールプレイを通じて、実践的な接遇能力を高め、現場で役立てる。	1前	30	1	○			○				○	
39	○			サービス接遇Ⅱ	当該科目では、接客業における基本的なマナーやスキルを学び、特にブライダルホテル業界におけるサービス接遇の重要性を理解します。 礼儀正しい対応や、身だしなみ、言葉遣い、表情、声のトーン、聴き手に配慮したコミュニケーション技術など、接客の基本を教授する。 実際のサービスシーンを想定したロールプレイを通じて、実践的な接遇能力を高め、現場で役立てる。	1後	30	1	○			○				○	
40	○			プレゼンテーション・ディベート学Ⅰ	当該科目では、プレゼンテーションの基礎理論から実践までを体系的に教授する。プレゼンテーションの定義や種類、目的の理解を深めた後、聴衆に伝わる話し方や表現方法を教授する。また、実際にスピーチやディスカッションを行い、後半はディベートを通じて論理的な思考力・対話力を養成します。 現場で、自作のプレゼンテーションを自信を持って発表できる力を身につけます。	1後	30	1	○	△		○			○		
41	○			プレゼンテーション・ディベート学Ⅱ	当該科目では、リアルウェディングをテーマに、プレゼンテーション力とデザイン制作スキルを教授する。PowerPointやデザインソフトを用いたプレゼン資料やペーパーアイテムの作成を通じて、企画意図を的確に伝える表現力と実務的な制作技術を身に付けさせる。 自作アイテムのプレゼンテーションを行い、発表とフィードバックを通して実践力と自己表現力を高め、現場で役立てる。	2前	30	1	○	△		○				○	
42	○			英会話基礎	当該科目は英会話基礎で学んだ知識を応用し、接客時に英語対応が可能スキルを教授する。	1後	30	1	○	△		○				○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダルホテル科)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義						演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
43	○			英会話応用	当該科目は英会話基礎で学んだ知識を応用し、接客時に英語対応が可能スキルを教授する。	2 前	30	1	○	△		○			○	
44	○			観光英語Ⅰ	観光英語検定3級合格取得対策を通し、ブライダル観光業界業界へ従事する為の基礎知識を教授する旅行の予約や手配、ホテルやレストランでの会話、地図の読み方など、旅行・観光に必要な英語表現を教授する。観光客に対する案内や説明、質問への回答など、観光業において必要な英語表現を身につけさせる。さらに、観光客に対するホスピタリティや、トラブル対応などについても学び実践へと繋げる。	1 後	30	1	○	△		○			○	
45	○			観光英語Ⅱ	観光英語検定3級合格取得対策を通し、ブライダル観光業界業界へ従事する為の基礎知識を教授する旅行の予約や手配、ホテルやレストランでの会話、地図の読み方など、旅行・観光に必要な英語表現を教授する。観光客に対する案内や説明、質問への回答など、観光業において必要な英語表現を身につけさせる。さらに、観光客に対するホスピタリティや、トラブル対応などについても学び実践へと繋げる。	2 前	30	1	○	△		○			○	
46	○			ブライダル企業研究	当該授業では、ブライダルおよびホテル業界に関わる主要企業の理念・サービス・文化などを調査・分析し、学生自身の進路選択に活かすことを目的とする。グループワークやプレゼンテーションを通して情報収集力や発信力を高め、将来の志望企業を見つけ、自分自身の強みや価値観と結びつけて表現できる力を教授する。	1 前	30	1	○		△	○		○	○	○
47	○			キャリアデザイン	個人ワーク、グループワークを通して自分への洞察を深め、仕事全般についての理解を高めて、仕事選択ができるようになる。	1 後	30	1	○			○		○		
48	○			基本IT技術Ⅰ	コンピュータを利用したITマナーについて学習。必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習・習得する。必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。	1 前	60	2	△	○		○		○		
49	○			基本IT技術Ⅱ	コンピュータを利用したITマナーについて学習。必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習・習得する。必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。	1 後	60	2	△	○		○		○		
50	○			基本IT技術Ⅲ	Webページ作成を通して、ITリテラシーとICTの基礎知識を習得。全コマを通して、HTML、CSS、JavaScriptなどのWeb技術を学び、実践的なWebサイト構築スキルを身につけます。	2 前	60	2	△	○		○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダルホテル科)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義						演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
51	○			ソーシャルメディア	これまでの学習内容を応用してソーシャルメディアとの連携機能をWebサイトに組み込む方法を学び、情報発信におけるデジタルリテラシーとソーシャルメディア活用の基礎知識を習得します。	2 後	30	1	△	○		○		○		
52			○	論理的思考力基礎	日常生活に関する題材を取り上げ、現状認識、問題発見をつかさどる把握力、定量分析、定性分析に発展させる分析力、意思決定、情報を研ぎ澄ませる選択力、シュミレーション能力を磨く為の予測力、プレゼンテーション能力を発揮できる表現力の基礎を教授する。	2 後	30	1	○			○		○		
53			○	ボランティア活動Ⅰ	ユニバーサル社会の実現のために高齢者、身体の不自由な人、または国籍やLGBTQなど多種多様な人たちに対して、分け隔てないおもてなし「ヒューマニティ ” 人間性尊重精神”」を持てるように接客・接遇の知識と技術を身につける。	2 後	30	1	△		○	○		○	○	
54			○	ボランティア活動Ⅱ	ユニバーサル社会の実現のために高齢者、身体の不自由な人、または国籍やLGBTQなど多種多様な人たちに対して、分け隔てないおもてなし「ヒューマニティ ” 人間性尊重精神”」を持てるように接客・接遇の知識と技術を身につける。	2 後	30	1	△		○	○		○	○	
合計						54	科目	67 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 必修科目 64単位 (1,920時間) および選択科目2単位 (60時間) の合計66単位 (1,980時間) の履修		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 単位：90分 × 15週の 座学 (授業) または 実習 をもって1単位とする。ただし校外実習などこれによりがたい場合は別途決定する。 科目履修 (単位) 認定の要件： 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。